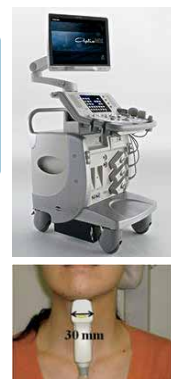


食品の咀嚼・嚥下時の舌運動を解析する —超音波画像診断装置を利用した評価—

技術の特徴

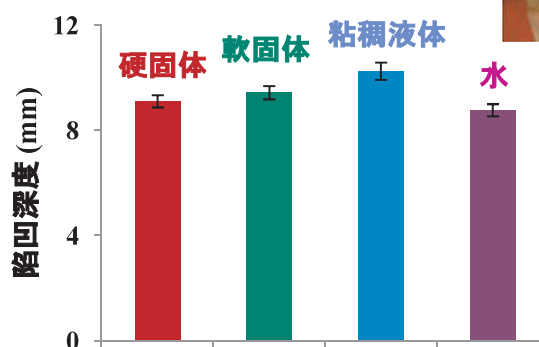
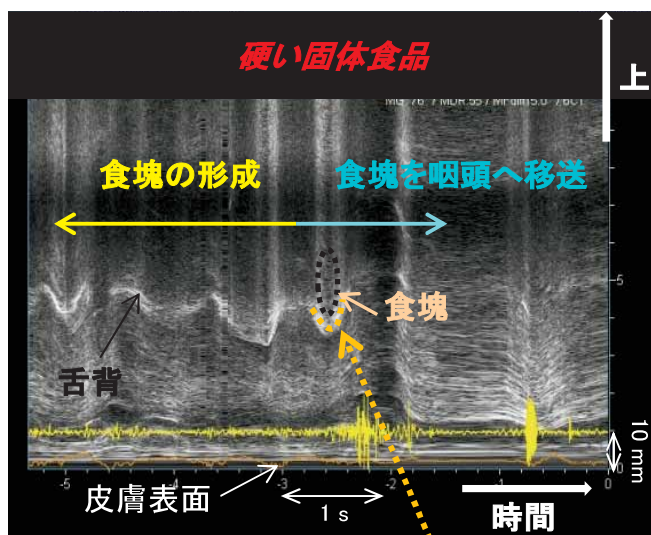
高齢化が進む社会。食物をうまく飲み込めず、誤嚥性肺炎が死因上位に。

- 超音波画像診断法で自然な摂食過程をリアルタイム観察
- 外部から見えない口内での舌の連続した動きの評価
- 食品の力学的特性と嚥下時のヒトの舌運動との関連を解明

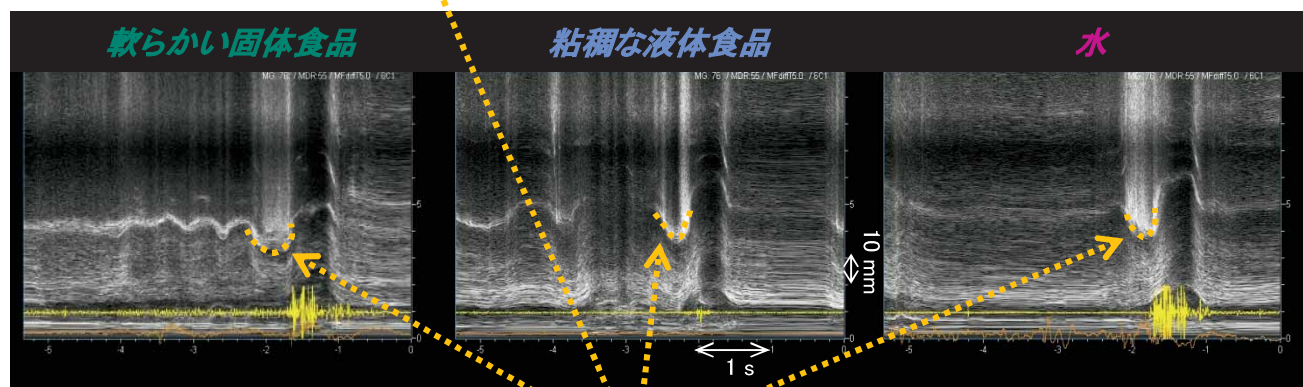


研究の内容

超音波プローブを下顎部に当てた状態で摂食



舌の陥凹の動き(深度・時間・速度)は食品により異なる



今後の展開

解析手法を改善し、食品の種類を増やし、高齢者・障害者向け食品の評価に活用

参 考

高智紅, 谷脇満, 島田宏美, 石原清香, 船見孝博, 神山かおる: 超音波画像診断装置による嚥下時舌運動の解析—力学的特性の影響について. 日本食品科学工学会誌, 59(12), 2012 (印刷中).



農研機構
食品総合研究所



代表研究者: 神山 かおる
所 属: 食品機能研究領域
食品物性ユニット

問合わせ先: 029-838-8031 kaoruk@affrc.go.jp